

います。自分も外国人なので、その男の子の気持ちを理解することができます。そういうわけで、何か力になれることができたと思います、サポート活動をしています。サポートする内容は、主に授業中の支援、文章の通訳や日本語（五十音から）などの補助です。

最初は言葉が通じないため、彼は学校で友達を作れませんでした。この一年間で日本語能力がだんだん高くなり、友達を作れるようになりました。確かに、日本語の能力は以前より高くなりましたが、教科書の内容を理解するのはまだ難しい

みたいです。

彼は、家庭では中国語を話しており、読み聞かせや日本の伝統行事などへの参加の機会が少ないので、今後は、国語学習の基礎となる語彙力や言葉への興味・関心、あるいは想像力などのようなものをいっそう身に付けなければならないと思います。そこで、これからのサポート活動では、関心のある本を読んだり、文章で自分を表現できるようにしたり、少しずつこの面でのサポートをしていきたいと思っています。

温かな支援をありがとうございます

宇都宮市立陽東小学校教諭 宇賀神 玲子

本校は、宇都宮大学から距離的に近いということもあり、様々な機会に宇都宮大学の支援をいただいています。

今年度の学生支援ボランティアとしては、支援を要する児童のクラスに入っていたいている学生さんのほかに、中国から来た児童の指導に入っていたいている呂卉さんのお二人にお世話になっています。

お二人とも、いつもとびきりの笑顔で職員室にご挨拶に来てくださり、「勝手知ったる陽東小」という感じで、担当の私がいなくてもきばきと判断して子どもたちのところに行き、自然なかたちで支援に入ってくださいます。

呂卉さんは、昨年度から引き続いて、中国か

ら来た5年生児童S君の学習指導を手伝ってくださっています。最初は日本語で自分の気持ちをうまく伝えられないS君の悩みを聞いてくださった、中国と日本の学習習慣の違いなどを担任に教えてくださった、児童のみならず担任もずいぶん助けていただきました。

弟を思う姉のような優しさの中にも、「やるべきことはしっかりやろうね」という熱い思いをもって指導に当たってくださっています。

支援ボランティア学生の方の子どもを思う熱心で真摯な姿勢に触れる度に、私たち教職員も初心に返る思いがします。これからも子どもたちの笑顔のために、私たちに力を貸していただけたらとても幸せに思います。

平成24年度・教職員サマーセミナー

「外国人児童生徒教育実践を創造するための視点・視野」を終えて

丸山 剛史

平成24年7月24日(火)、宇都宮大学教育学部スクールサポートセンター主催の教職員サマーセミナーの一講座として「外国人児童生徒教育実践を

創造するための視点・視野」が開催された。同講座は、HANDS プロジェクトの活動の一環をなすものであり、プロジェクトの活動としては3年連続